

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	校内フリースペース研究会
コース	団体研究コース
活動・研究のテーマ	自ら求め生きる子どもを育むためのフリースペースの在り方

〈活動・研究の意義および活動報告〉

活動のねらい：

不登校対策として、一人一人の強みを生かし、社会的に自立を目指すことができる場としてのフリースペースの在り方を明らかにする。

対象者：中学校1年生から3年生までの生徒で、

- ① 不登校の状態にある生徒
- ② 状況からみて不登校になる可能性がある生徒

時期：2023年4月から2024年3月

実践内容：

(1) 環境づくり＝学校らしくない空間

生徒にとって、「安らぎ」「シェルター」「創造」「協働」「学び」が感じられる空間

- ① 共有スペース（コミュニケーションができる空間）、学習スペース（学習をする空間）の2つの部屋を整備した。また、共有スペースでは、多重知能理論の8つの知能に関する考え方をもとに関連する用具を準備し、自分の知能バランスや得意ができるだけ伸ばせるよう工夫した。



学習スペースでの学び合い



共有スペースでの将棋



音楽的能力を高める

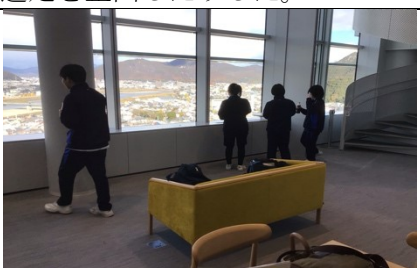
- ② 近くの児童センターでバドミントンや保育教室の手伝いをしたり、遠足を企画したりした。



児童館スタッフと卓球



保育教室の手伝い



遠足で市役所展望台へ

(2) 心身の安定＝睡眠、食生活、運動（少しの日光浴を含む）を含む、生活のリズムのあるカリキュラムの作成

タブレット端末や日常会話による心の状態、食事、睡眠など基本的な生活習慣の把握を行った。昼夜逆転を防ぎ、健康な生活のための「運動・散歩」を最低限のカリキュラムとして位置づけた。学校に隣

接する児童センターと連携し、午後の決まった時間に体育館を使用し毎日運動することができた。

- (3) セルフデザイン=時間割を自分で作成し、生活や学習を自らデザインできるよう支援
生徒自身が「自分の時間割」をつくり1日の計画し実行することで、指示をされるのではなく自分で決めて行うことに重点を置いた。仮に何もしない時間があっても見守ることにした。
- (4) 不登校生徒だからこそできる強みを最大限生かした体験学習の模索
校内フリースペースでは、生徒の自主性や興味関心を高めるために、様々な講師の先生と活動をしたり、学校外に出て体験活動を行ったりした。以下は活動の一部とその活動の目的である。

<活動の具体例>

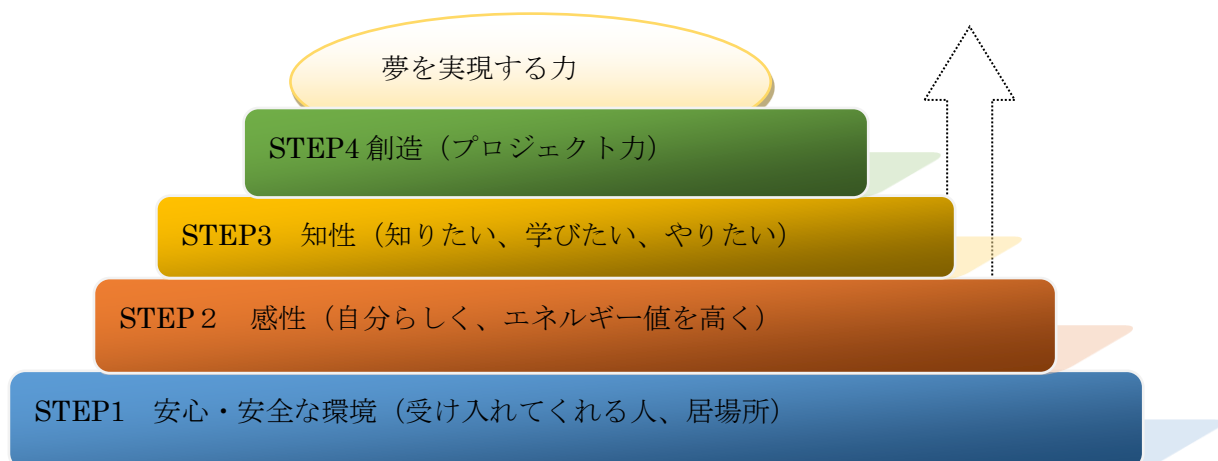
活動	目的
生徒が企画した遠足の行先として市内の若者支援センターや公営のサードスペース(学校以外の居場所)を訪問	20歳まで相談でき、中学校卒業後も相談ができる場所や学校にどうしても足が向かないが家にいることができない時の大人の見守りがある安心できる場所を知る
名古屋港水族館	キャリア教育の1つとして、バックヤードの見学をして、進路意識を高める
児童館幼児教室のイベント手伝い	スタッフの仕事としての職場体験 幼児にかかわることで自己有用感を高める
料理教室(校内フリースペースの保護者による)	家庭科の調理の授業として、自立をするために必要なスキルの育成
自動運転の自動車に乗ってみよう	社会の変化に目を向ける体験

成果：

5校の担当者で年5回の実践交流することで、校内フリースペースでの必要なことが徐々に明らかになってきた。学びの多様化学校「草潤中学校」や「オルタナティブスクール共育オアシスあいぎふ自由学校」岡崎市「F組(校内フリースクール)」、「WING SCHOOL」「サニーサイドインターナショナルスクール」など、公立、私立の多くの学校を視察し、校長やスタッフと対話をできたことも大きな力となった。

図1は今年度行ってきた成長のステップの構想図である。安心・安全な環境をつくることである。生徒の居場所ができ、利用者数や利用時間がどの校内フリースペースも高まった。周りの先生から見て、生徒の表情が明るくなったり、校内フリースペース独自活動への参加率の高まったり、自分たちで新たな活動計画を作ったりなど、少しずつエネルギー値が高まっている様子が見られるようになった。現在、5校ではSTEP2までできている生徒が増えたと判断している。

図1 成長のステップ



<課題>

「STEP3 知性」、「STEP4 創造」へのステップへと進むことで、校内フリースペースが新たな学ぶ場であり、自分らしく未来の自分を創っていく居場所だと生徒が意識し生活できる文化を醸成していけるよう工夫する。